



JR総連「政策・提言フォーラム」開催！②

JR東海労は本橋書記長が発表

システムを活用しつつ「人間の五感」を重視した車両検査こそ安全が確保できる！

日本国内では少子高齢化が進み、将来の労働人口の減少が大きな問題となっています。JR各社では、さらなる利益追求に向けた、度重なる効率化が行われてきましたが、少子高齢化による労働力不足・人材不足はより深刻なものになっています。こうした問題に対してJR各社は、AI（人工知能）、ICT（情報通信技術）などの最新技術を導入し、これまで以上に機械化・効率化を推し進めようとしています。

しかし、こうした最新技術を活用した効率化によって私たちの職場はどうなっていくのでしょうか。車両、工務の職場などメンテナンス部門では、業務委託・外注化が進み、安全や技術の継承が滞る事態になっていないでしょうか。

これまでの人間の五感による検査体系を廃し、AIやICTの技術を駆使した検査体系で鉄道の安全は確保できるのでしょうか。こうした技術は、人間では検知できなかった検査としては有効と考えられますが、私たちは鉄道の安全は、経験を積んだ「人間の五感」によるところが大きいと考えます。

マニュアルがあれば誰でも検査、修繕ができるとした考えや、システムに頼った検査体系は、検査にあたる作業者が自分で考えることや判断力が低下することにつながるのではないのでしょうか。

マニュアルやシステムに頼り切った検査体系を改め、要員削減と経費削減を目的とすることなく、人間とシステムの「住み分け」を図ることで「のぞみ34号台車亀裂事故」のような事故を防ぐことができるのではないかと考えます。